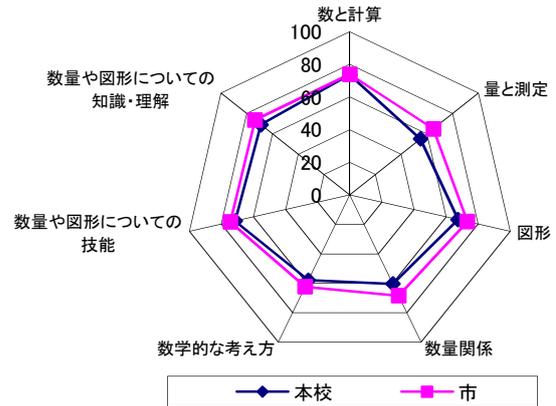


宇都宮市立御幸小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	73.6	73.9
	量と測定	55.0	65.0
	図形	67.4	73.2
	数量関係	60.5	68.5
観点別	数学的な考え方	57.9	62.4
	数量や図形についての技能	71.4	74.4
	数量や図形についての知識・理解	69.0	73.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は73.6%と市の平均正答率とほぼ同じであった。特に、分数のたし算、小数と整数のかけ算やわり算の計算問題の正答率が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> この領域を指導するにあたっては、3・4年生の学習が基礎となるため、朝のぐんぐんタイムを活用して分数や小数の四則の計算について復習を行い、繰り返して学習することで定着を図る。また、公倍数や公約数など5年生で初めて学ぶ内容についても正しく理解できるまで繰り返し学習し、定着を図れるようにする。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は55.0%と市の平均正答率より10%下回った。特に、単位量当たりの大きさを求める問題や直方体や立方体の体積の求め方が十分理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位量当たりの大きさについての指導にあたっては、図を活用して視覚的に場面をとらえさせ、理解を図るようにする。体積の指導にあたっては、立体模型や1cm³の立方体を使って学習を進め、体積の単位や大きさについて具体的なイメージを持って学習できるようにする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は67.4%と市の平均正答率より5.8%下回った。特に三角形の内角の和が180度であること、外角は180度から引いて求めることについて十分理解されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> この領域を指導するにあたっては、三角形では3つの角の大きさの和が180度になることを、三角形の角度を測ったり、角を切り取って並べたりする活動を通して、理解できるようにする。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は60.5%と市の平均正答率より8%下回った。特に、伴って変わる二つの数量の関係についての理解が不十分だったため、式に表すことができなかった。また、小数の計算については、十進法や計算のきまりが十分理解できていないため、計算するときの順序や小数点の移動が正しくできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる二つの数量の関係を指導するにあたっては、図や表をかく活動を通して、二つの数量間の規則性を考えさせるようにする。小数の計算については、既習の計算のきまりを確認しながら、小数でも同じきまりで計算できることを理解させる。また、例題を解く時間を設定して習熟を図る。